

東洋学園大学教授 おおにし ひろと
大西 泰斗さん

① すべての人に英会話を



むじこになります。
この問題には単純な解決法がありません。よく聞く「聞き流せば短時間で英会話が上達する」や「外国で暮らせばすぐに話せるようになる」という短兵急な解決法は疑問です。私の息子は小学校3年から米国で暮らしていますが、まともに話すのに1年、授業についていくのに2年ほどかかりました。

多くの日本人が長年かけて英語を学びながら、なぜ満足に話せないのか。東洋学園大学教授の大西泰斗さんは、専門の言語学をベースに独自のアプローチでこの問題に挑んでいる。講師を務めるNHK「ラジオ英会話」も人気だ。
私は英語が話せないことで、世界の中で日本人の能力が埋もれていると思うています。英語は現在、事実上の世界公用語で、それが満足に話せないのは「自由」を失うのと同じです。放置しては私たちが本来持つ可能性の芽を摘むことになる。

英会話、まず文法を ■ やり方に間違い

略歴 1961年埼玉県生まれ、59歳。89年に筑波大学大学院文芸言語研究科の博士課程単位取得退学。英オック

スフォード大学言語研究所客員研究員、東洋女子短期大学教授を経て2006年から現職。



経験や言語学者としての考え方を番組や著作を通じて伝え、すべての日本人に同じレベルに到達してもらおうのが目標です。
英会話を学ぶためには文法を理解することが重要と話す。しかし既存の文法書とは異なるアプローチをとるため、批判されることも少なくない。
英会話を学ぶのにまず文法から、というたいていの人は驚きます。しかし、ことばには外すことができない理路があり、それを理解せずやみくもに覚えるのは非効率です。まず文法で英語の動き方を理解し、その上で地道に暗

記を重ねる。それが大切です。「文法」と言いましたが、伝統的な学校文法ではありません。学校文法は英文を読むことを目標としてきたため、話すための重要なポイントの説明が尽くされていません。話すにはそれに適した文法が不可欠なのです。
話すための文法の核は「語順」です。どういった順で表現を並べるのか。英語と日本語は大きく語順が異なり、そこを埋めることがまず必要なのです。とはいっても、語順のルールはおなじみの主語・述語動詞・目的語の「SVO」など5つの基本文型に加え、「説明は後」など2つほどを

覚えるだけで大丈夫。たいへんシンプルです。
ひと通り文法を理解すれば、学習が効率化すると同時に、日本人の多くがなぜ英語をしゃべれなかったのか、その理由がわかるはず。私たちは話すために必要な学習も、練習もしたことはなかったのです。「方法も教えないで話せ」というのは、「無理難題」と言いますよね。
大学受験や就職した短大での経験から、英語教育に興味を持つようになった。私自身、高校時代は決して英語が得意ではありませんでした。大学受験の際の共通1次試験では、5教科の中で最も点数が低かったのが英語です。教師になるつもりで入学した筑波大学では、はじめ得意科目だった国語を専攻するつもりでした。しかし英語も国語も同じくらい力を入れて勉強したのに、英語は国語ほどできない。やり方に何か大きな間違いがあったのではないか、と負けず嫌いの性分が頭をもたげて、英語を専攻にすることにしました。
大学院を出て就職した東洋女子短期大学(現・東洋学園大学)は英語教育に定評のある学校でしたが、それでも流ちょうに話す学生はあまりいませんでした。学生をどう鍛えるか。それが、それまでやってきた言語学を離れ、英語教育に向かう大きな転機となりました。
(編集委員 小玉祥司が担当します)